北海道博物館研究紀要　Bulletin of Hokkaido Museum 3: 201-218, 2018

調査報告

来館者調査からみる北海道博物館の総合展示室およびはっけん広場の現状と課題

栗原憲一・池田貴夫・堀　繁久

Key Words　来館者調査（Audience research）、博物館実習（Museum practice）、北海道博物館（Hokkaido Museum）

1　はじめに

北海道博物館は、旧北海道開拓記念館と旧北海道立アイヌ民族文化研究センターが統合し、2015年4月にオープンした総合博物館である（施設は旧北海道開拓記念館を使用）。この統合に伴い、老朽化した施設および展示の改訂工事が実施され、特に、常設展示は総合展示と呼称を変え、通史展示からテーマ展示へ大幅に刷新された。

一方、博物館実習は、学芸員養成教育において、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において習得すべき博物館に関する科目の1つとされ、登録博物館または博物館相当施設（大学においてこれに準ずると認めた施設を含む）における実習により習得するものとされている（文部科学省 2009）。

北海道博物館では、現在、年1回博物館実習の受け入れを行っており、様々な分野の資料を実際に取り扱ったり、来館者とふれあう機会をとおして、実践的な経験や訓練を積ませている。栗原・田村（2017）は、この博物館実習中に実施した来館者調査の結果を報告し、総合展示について、1）満足度は高いが、一方で「展示資料数が少ない」、「子どもには少し難しい」、「順路がわかりにくい」という意見が認められる、2）展示の観覧はおおむね1時間程度であり、テーマの数字順に観覧している人が多い。ただし、徐々にテーマごとの滞在時間が短くなっており、これは展示観覧に疲れてきている、もしくは飽きてきている可能性が考えられる、などが見出されたことを明らかにした。しかし、全体の傾向を調べるためには、定期的・継続的な調査が今後も必要である。

そこで、2017年度の博物館実習においても同様の来館者調査を実施した。本稿は、その結果を報告するものであり、総合展示の問題点・課題点を洗い出し、今後の改善に向けた基礎資料となることを目的とする。さらに、今回の調査では、「はっけん広場」と呼ばれる体験室の来館者調査も新たに実施したので、その結果も報告する。

なお、本調査は、実習を担当する博物館研究グループとはっけん広場を所管する道民サービスグループの合同実習として行った。博物館研究グループでは栗原憲一と堀　繁久が総合展示室の調査、道民サービスグループでは池田貴夫がはっけん広場の調査をそれぞれ担当した。

2　博物館実習における来館者調査

(1) 調査場所

来館者調査は、「総合展示室」（1F、2F）と「はっけん広場」（中地階）を対象に実施された（図1）。

1) 総合展示室

展示資料数は約3,000件、延床総面積は約3,000m^{2}である。プロローグ、第1～2テーマの展示が1階、第3～5テーマの展示が2階に設置されている（図2）。

同展示は、メインコセプトを「北東アジアの中の北海道」、サブコンセプトを「自然と人とのかかわり」とし、北東アジアの中の北海道という観点から、人の営みと自然との多様な関わりについて意識した展示を展開している（堀 2014）。各テーマ（大テーマ）の展示概要は下記のとおりである。

プロローグ「北と南の出会い」：床面にひろがる北東アジア地域の衛星画像と映像で北海道を紹介し、北海道は北の端という見方を転換している。南から来たナウマンゾウと北から来たマンモスゾウの復元骨格標本が向かい合うことで、「北東アジアの十字路」としての北海道を表現している。

第1テーマ「北海道120万年物語」：北海道島が形成された120万年前からスタートし、ゾウが渡ってきて人類が住み始めた時代から、縄文・続縄文・擦文・オホーツクなどの先史文化、アイヌ民族による交易活動、本州

栗原憲一：北海道博物館　研究部　博物館研究グループ
池田貴夫：北海道博物館　研究部　生活文化研究グループ
堀　繁久：北海道博物館　研究部　博物館研究グループ

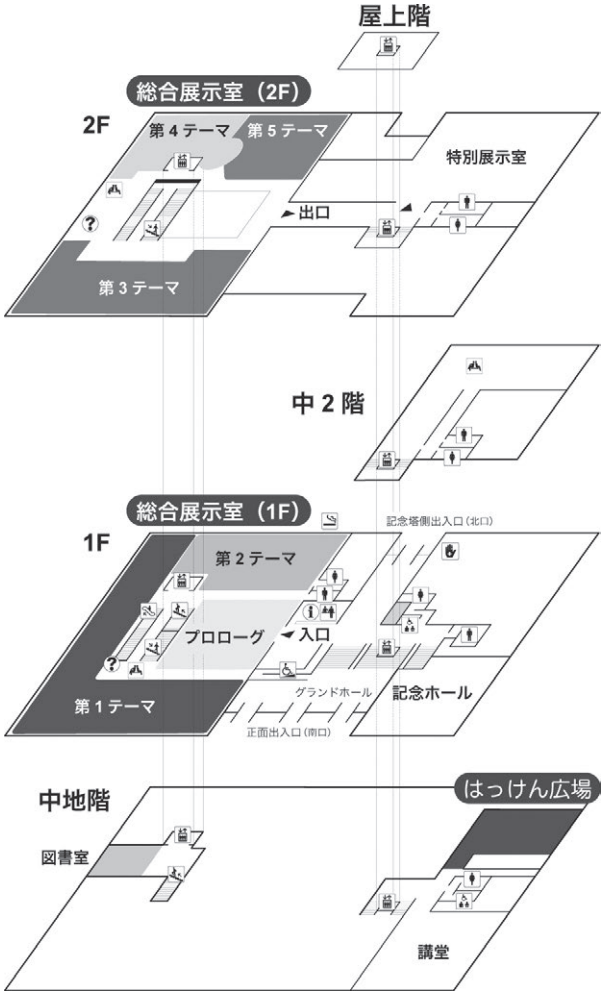

図1　北海道博物館における総合展示室とはっけん広場の位置

写真1　はっけん広場

以南からの移住など19世紀終わりごろまでの北海道の歴史を紹介している。中テーマは、「1–1人類の時代へ」、「1–2北海道独自の文化へ」、「1–3蝦夷地のころ」、「1–4蝦夷地から北海道へ」の4つに分かれている。

第2テーマ「アイヌ文化の世界」：アイヌ民族の現在の姿を示し、衣食住・信仰・物語・歌など伝承されてきた文化の紹介と同時に、アイヌ文化を歴史的にとらえる視点を提示している。また、「アイヌ語ブロック」による言語展示への試みや（田村・出利葉 2016）、歌や踊りの映像、伝統楽器トンコリにふれるなどの参加型展示も用意されている。中テーマは、「2–1現在を知る」、「2–2伝統を学ぶ」、「2–3ことばを聴く」、「2–4歩みをたどる」の4つに分かれている。

第3テーマ「北海道らしさの秘密」：北海道独特の景観、海や大地の資源を活かした各種の産業、多雪寒冷な気候への適応を模索した生活スタイルなど、現在の「北海道らしさ」につながるさまざまな要素を、「産業」と「くらし」の視点から、よりよい未来のくらしや未来の北海道を世代間で対話しながら考えることができる展示を試みている（池田ほか 2016）。中テーマは、「3–1自然の恵みとともに」、「3–2四季とともに」、「3–3〈北海道らしさ〉のア・ラ・カルト」の3つに分かれている。

第4テーマ「わたしたちの時代へ」：20世紀のはじまりから戦争、高度経済成長を経て現代まで、激動の時代を社会の動きと人びとの意識、時代との関わりから振り返っている。第3テーマと同様、過去に学びながら、多様な価値観や発言・取り組みに目を向け、北海道の将来について、世代間で考えることができる展示を試みている（池田ほか 2016）。中テーマは、「4–1アジアの戦争と北海道」、「4–2高度経済成長の時代」、「4–3いまとこれからを創る」の3つに分かれている。

第5テーマ「生き物たちの北海道」：北海道の生物多様性やそれを支える生き物の「つながり」を、生き物の視点で紹介している。ヒトによる影響や現在のヒトとの軋轢などを知ることで、自分たちと自然とのこれからについて考える展示となっている（堀 2015）。中テーマは、「5–1生き物たちのつながり」、「5–2ヒトの近くの自然」、「5–3北と南の動物たち」の3つに分かれている。

2）はっけん広場

「目で感じよう、ココロでふれよう、手ではっけんしよう」をキャッチフレーズに、子供から大人まで実物に触れて何かを発見できる場となるよう設置された、中地階にある面積140m^{2}の体験室である（北海道博物館 2017）（写真 1）。化石にさわる、アイヌ民族の文化を体験する、昔のくらしにふれるなどの「はっけんキット」が整備されている。これは、キットの種類ごとに箱に収納され、写真1の奥側に見えるように棚に配置されている。来館者は、キットを自由に取り出して、畳やマットの上に広げて体験することができる。また、年間を通して期間とテーマを定めた「はっけんイベント」が土曜日、日曜日、祝日限定で開催されている。これは、必ず解説員が補助役について実施するイベントである。

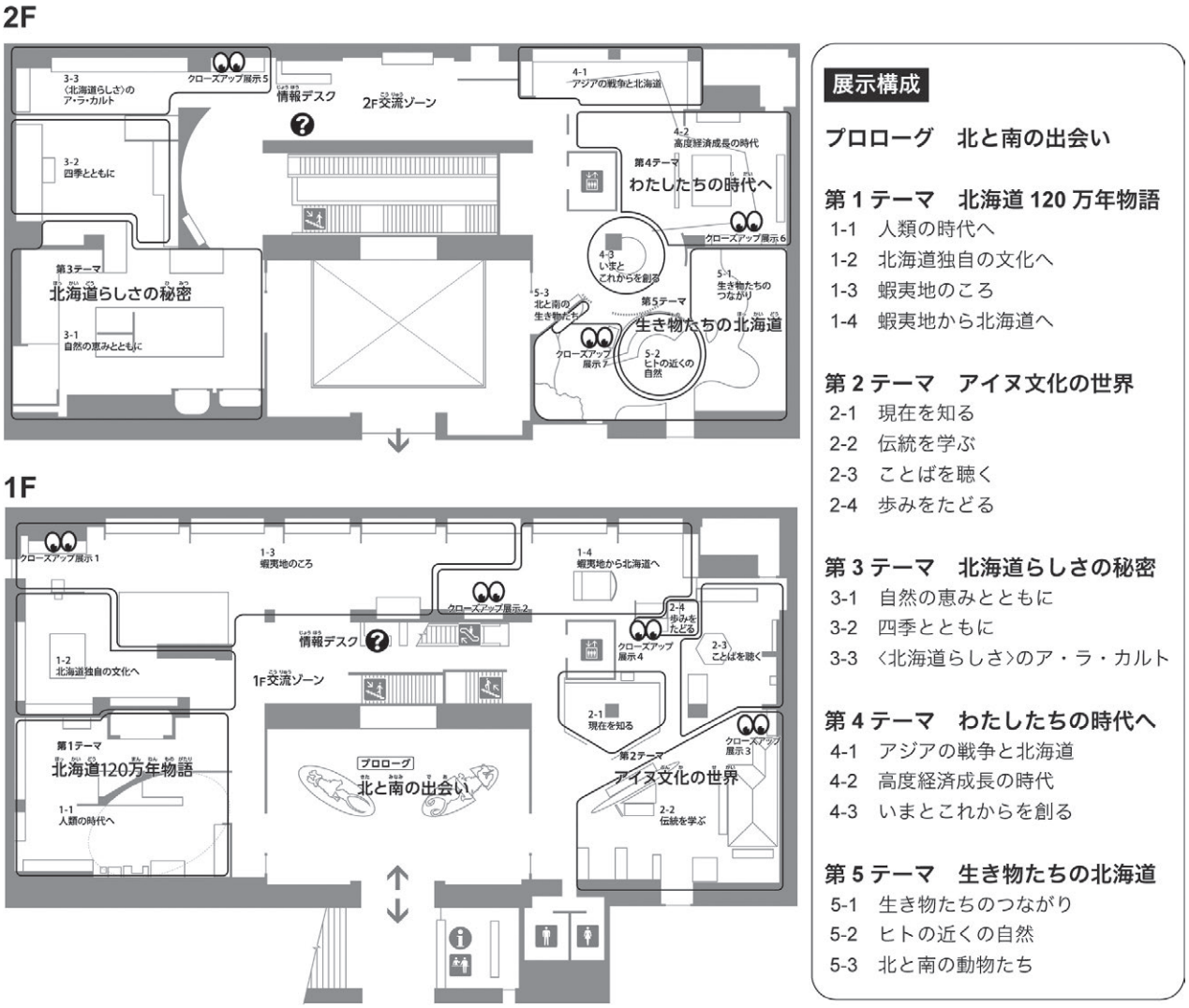

図2　北海道博物館総合展示室の平面図と展示構成

(2) 調査日

2017年度の博物館実習は、8月22日（火）～9月1日（金）までの休館日を除いた10日間行われ、16名が参加した。そして、来館者調査は、実習6日目となる8月27日（日）の10:00～15:30（実習は9:00～17:00）まで実施した。実習生は2班に分かれ、後述するインタビュー調査と動向調査をそれぞれ「総合展示室」と「はっけん広場」で行い、後半に場所を交代して両方の調査を経験することができるようにした（図3）。

なお、調査日は、特別展示室において特別展「プレイボール！ －北海道と野球をめぐる物語－」（9:30～17:00）の開催期間中であった。はっけん広場では、はっけんイベント「アイヌ民族のゴザ編み機でコースターを作ろう！」（9:30～17:00）が開催されていた。

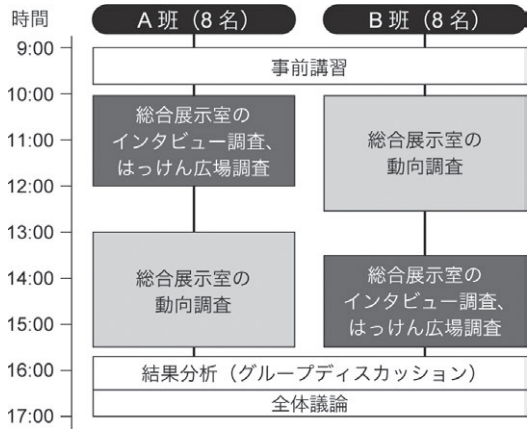

図3　来館者調査を実施した博物館実習プログラム

(3) 総合展示室における来館者調査

1) インタビュー調査

実習生（2人1組　合計3組）が、総合展示室出口（2階）から出てきた来館者に調査協力の依頼を行い、1人がインタビュー、もう1人が調査表にその内容を記入した。インタビューは、来館者の属性（年齢、居住地、同伴者、性別）、過去の来館回数、来館動機、職員の対応、料金の妥当性、総合展示の満足度などを調査した。

表1　総合展示室におけるインタビュー調査から得られたデータリスト

No.	年代	性別	居住地	同伴者（人数）	手段	来館経験	来館動機（複数回答可）			情報源
1	70代	男性	道外	友人（2）	自家用車	ない	余暇のくつろぎ	旅行のついで	仕事のついで	知人紹介
2	50代	男性	札幌市（厚別区）	友人（2）	自家用車	ない	余暇のくつろぎ	旅行のついで	仕事のついで	以前から知っている
3	65～69歳	男性	江別市	ひとり(1)	自家用車	1回	特別展	—	—	新聞
4	65～69歳	男性	札幌市（厚別区）	夫婦（2）	自家用車	6回以上	総合展示	—	—	HP
5	20代	男性	道外	ひとり(1)	その他	ない	なんとなく	そのほか	旅行のついで	HP
6	40代	女性	恵庭市	家族（3）	自家用車	6回以上	そのほか	—	—	HP
7	65～69歳	男性	札幌市（白石区）	夫婦（2）	自家用車	2～5回	特別展	—	—	新聞
8	50代	男性	札幌市（北区）	家族（3）	自家用車	6回以上	そのほか	—	—	その他
9	80代以上	女性	札幌市（北区）	家族（3）	自家用車	ない	そのほか	—	—	知人紹介
10	40代	男性	札幌市（手稲区）	夫婦（2）	自家用車	ない	特別展	—	—	新聞
11	20代	女性	江別市	家族（3）	自家用車	ない	余暇のくつろぎ	そのほか	—	雑誌
12	60～64歳	男性	札幌市（清田区）	ひとり(1)	自家用車	ない	なんとなく	そのほか	—	その他
13	60～64歳	女性	江別市	夫婦（2）	自家用車	6回以上	特別展	余暇のくつろぎ	—	以前から知っている
14	30代	男性	他道内	家族（3）	自家用車	2～5回	余暇のくつろぎ	—	—	テレビ
15	40代	女性	札幌市（中央区）	家族（3）	自家用車	2～5回	特別展	—	—	知人紹介
16	30代	女性	江別市	家族（4）	自家用車	2～5回	そのほか	—	—	以前から知っている
17	40代	男性	他道内	夫婦（2）	自家用車	ない	余暇のくつろぎ	そのほか	—	以前から知っている
18	40代	男性	札幌市（清田区）	家族（3）	自家用車	ない	余暇のくつろぎ	そのほか	—	ラジオ
19	60～64歳	男性	千歳市	ひとり(1)	公共交通機関	2～5回	特別展	そのほか	—	以前から知っている
20	50代	男性	札幌市（手稲区）	夫婦（2）	自家用車	ない	特別展	—	—	ちらし、ポスター
21	50代	男性	道外	友人（2）	公共交通機関	ない	そのほか	—	—	HP
22	65～69歳	男性	札幌市（白石区）	家族（3）	自家用車	6回以上	特別展	—	—	以前から知っている
23	60～64歳	男性	札幌市（厚別区）	夫婦（2）	自家用車	2～5回	総合展示	そのほか	—	ラジオ
24	30代	男性	他道内	家族（4）	自家用車	ない	そのほか	—	—	以前から知っている
25	30代	女性	石狩市	その他(8)	その他	2～5回	仕事のついで	そのほか	—	HP
26	60～64歳	男性	札幌市（手稲区）	ひとり(1)	その他	2～5回	そのほか	—	—	以前から知っている
27	70代	男性	札幌市（白石区）	ひとり(1)	その他	2～5回	そのほか	—	—	以前から知っている
28	30代	女性	札幌市（中央区）	家族（3）	自家用車	ない	そのほか	—	—	HP
29	65～69歳	男性	札幌市（厚別区）	夫婦（2）	自家用車	ない	総合展示	そのほか	—	テレビ
30	50代	男性	札幌市（東区）	家族（3）	自家用車	ない	そのほか	—	—	HP
31	30代	男性	石狩市	その他(6)	その他	ない	総合展示	そのほか	—	知人紹介
32	30代	女性	札幌市（北区）	夫婦（2）	公共交通機関	ない	旅行のついで	—	—	知人紹介
33	50代	男性	北広島市	家族（3）	自家用車	ない	そのほか	—	—	HP

職員対応	観覧料	印象に残った展示	総合展示印象	全体の感想
ふつう	適切		大変不満	リピーターは増えない（定期的に常設の展示替えを行った方が良い）
ふつう	適切		大変不満	総合博物館になり、以前より内容が薄くなった。近現代が多すぎ、その割には一つ一つの発展の歴史がわかるような展示ではないので、全てが中途半端な印象。アイヌ文化についての展示も以前の方が良く、人権などに気を遣いすぎていると感じる。
ふつう	その他	アイヌ文化の世界。アイヌが大変でインディアンみたいで面白かった。	満足	喋る人形（汽車の中）のところに行くと、急な音声にびっくりした（子どもは泣くと思う）。展示室の周り方がわからない。案内図がない。
ふつう	その他	古い時代から新しい時代まで。特にアイヌ関係の展示	満足	腰が痛くなるので、椅子がほしい。
わからない	適切	アイヌから今までの歴史の流れがわかって良かった。全体が良くて一つに絞れない。	満足	展示についての英語の解説がもっとあったら良かった。
よい	高い	動物のぬいぐるみが良かった	たいへん満足	子供でもわかりやすい解説がほしい。
よい	その他		たいへん満足	
よい	その他	ナウマン象とマンモスの対比が良かった。アイヌについてはすごく詳しい。戦争について細工されている。	たいへん満足	パソコンはタッチパネルで良かったが、気づかないですぎた人が言って勿体無いと思った、アピールが必要。子供対象なら内容は難しい。
よい	その他	アイヌ文化の世界はとても面白かった、自分がシャクシャインとの共通点（住んでるところ）があって良かった。縄文時代と弥生自体がとても興味深かった。	満足	
よい	適切	アイヌ文化。北海道の開拓	たいへん満足	展示については満足。ただし、駐車場から入り口までの順路が分かりづらい。
ふつう	適切	アイヌ文化の展示で家族の会話形式のところ	満足	博物館に入る前の開けた場所が殺風景に感じた。
ふつう	適切	アイヌ文化のところに結構スペースを取っていると感じた。	満足	順路について、標準経路を示してほしい。展示内容は予想の範囲内。アイヌの部族同士の交流について具体的な資料があれば見たい。各地に住むアイヌの特徴があれば知りたい（地域性）
ふつう	適切	マンモス	満足	車椅子で来ているが、スロープが急で狭い。また、スロープ横の壁で見通しが悪くなっており、逆方向から来た歩行者とぶつかりそうになる。冬季は除雪が行き届いていない。身障者用トイレが少ない。
ふつう	その他	ナウマン象	満足	
よい	適切	アイヌの展示　映像、どんぐり	たいへん満足	
よい	適切	どんぐり	たいへん満足	どんぐりが楽しかった
ふつう	安い	アイヌの歴史、車と冷蔵庫	満足	体験的展示が各テーマごとにあると子供達にとってもより楽しめるものになるのではないか（もう少し増やしてほしい）。照明が綺麗に作られていて良かった。清潔感があって良い。
よい	安い	アイヌの楽器、骨が触れる、鯨の歯、マンモスの骨	たいへん満足	歩くコースがわかりにくい、展示コーナーの順路で反対側から来た人とぶつかりそうになるので順路がほしい
ふつう	適切	アイヌ関係、開拓の歴史	たいへん満足	リニューアルしてスッキリした。整理されていて見やすい。
よい	安い		満足	
ふつう	適切	動物、北海道独自の文化	満足	化石が良かった
よい	安い	ヒグマの剥製、プロローグにある日本列島の地図	たいへん満足	全体的に暗かった。ミニチュアが楽しかった。ジオラマが良かった。
よい	適切	炭鉱展示とアイヌ展示	たいへん満足	展示室の椅子の高さが低く、立ち上がる時困難
ふつう	適切	どんぐり、マンモス	たいへん満足	炭鉱の展示のところに、美唄の資料が含まれていなかった。
よい	適切	列車内の展示	たいへん満足	夜の動物についての展示が子供に好評だったのでもう少し長くやってほしかった
ふつう	適切		—	
わからない	安い	普段見られないものが見ることができた。マンモス	たいへん満足	
よい	高い	マンモス。アイヌの暮らし。サケのホッチャレ。	たいへん満足	進路が分かりにくかった。
よい	その他	アイヌに関する展示、2階の壁の年表が凄かった	たいへん満足	見落としがあるかもと心配で、同じところを何回も見てしまう。順路があいまい。
ふつう	適切	アイヌ展示	満足	子供が見飽きてしまった
ふつう	その他	どれも良かった。	たいへん満足	子供はどうしても展示物を触りたくなってしまうので、触れる展示をもっと増やしてほしい。
よい	適切	交易品のサケの模型	満足	順路が分かりにくかった。
よい	安い	どんぐりころころ、めくれる説明、アイヌの刺繍	たいへん満足	自由に行き来できるけど、わかりやすい順路があるといい

2) 動向調査

実習生（2人1組　合計4組）が、総合展示室入口（1階）で来館者が展示室に入る前に調査協力の依頼を行い、観覧の妨げにならないよう配慮しながら追跡し、中テーマサインごとに到達した時間を調査表に記入して滞在時間を記録した。

(4) はっけん広場における来館者調査

1) インタビュー調査

実習生1人が、はっけん広場から出てきた来館者に調査協力の依頼を行った。インタビューは、来館者の属性（年齢、居住地、同伴者、性別）、使用したはっけんキットの種類、はっけんイベントの参加の有無、はっけん広場の満足度などを調査した。

2) 動向調査

実習生1人が、来館者がはっけん広場に入る前に調査協力の依頼を行い、体験の妨げにならないよう配慮しながら、使用するはっけんキットの使用時間を記録した。

3　結果と考察

(1) 総合展示室における来館者調査

総合展示室の観覧料は、中学生以下または65歳以上が無料、高・大学生が300円、一般が600円である。2017年8月27日における総合展示室の来館者数は314人（有料162人、無料152人）であった。インタビュー調査には33人（同伴者を含めると62人）、動向調査には15人（同伴者を含めると34人）から回答協力を得られた。

なお、インタビュー調査と動向調査の協力者は重複しないように配慮されている。以下に、インタビュー調査、動向調査それぞれの結果について考察を交え記載する。

1) インタビュー調査（表1、図4）

回答者の年代（図4A）：代表者1人が回答し、その年代は「10代以下」が0人、「20代」が2人（6.1%）、「30代」が7人（21.2%）、「40代」が5人（15.2%）、「50代」が6人（18.2%）、「60～64歳」が5人（15.2%）、「65～69歳」が5人（15.2%）、「70代」が2人（6.1%）、「80代以上」が1人（3.0%）であった。この内訳を「小・中学生（10代以下）」、「有料（20代～64歳）」、「65歳以上」に分けると、それぞれ0.0%、75.9%、9.1%となる。したがって、今回の調査は有料入館者となる青年期～壮年期の入館者の意見が最も強く反映されていると考えられる。これは、今回の調査と同時期である2016年8月下旬の週末（道内では夏休み終了後の週末）に実施した来館者調査（栗原・田村 2017）で報告された傾向と一致するため、以下、同様の調査内容の場合には2016年度の結果とも比較する。

回答者の性別（図4B）：「男性」が24人（72.7%）、「女性」が9人（27.3%）であった。インタビュー調査は、各団体で代表者が1人で答えていたため、家族もしくは夫婦での来館の際には父親が答えることが多かったと考えられる。これも2016年度と同様の傾向であった。

居住地（図4C）：「札幌市」が17人（51.5%）と最も多く、近隣では「江別市」が4人（12.1%）、「北広島市」、「恵庭市」、「千歳市」がそれぞれ1人（3.0%）、「石狩市」が3人（9.1%）であった。「その他道内」は3人（9.1%）おり、空知、胆振地域から来館していた。また、「道外」からも3人（9.1%）おり、大阪府、福岡県、米国から来館していた。

2016年度においても来館者の居住地は札幌市が約半数（51.7%）を占めており、札幌市を中心とする来館者構成は変わらない。

同伴者（図4D）：「ひとり」での来館は6人（18.2%）、「友人」とは3人（9.1%）、「カップル」は0人、「夫婦」では9人（27.3%）、「家族」では13人（39.4%）、「その他」が2人（6.1%）であった。

昨年度と比較すると、2016年度は「家族」での来館が60.0%、「夫婦」が11.7%であったのに対し、2017年度は家族での来館割合が少ない一方、夫婦での来館割合が多い。これは、2016年度の特別展は小学生とその保護者をターゲットにした展示を実施し、2017年度の特別展はそれよりも高い世代をターゲットにした展示を実施していたことが影響していると考えられる。

来館手段（図4E）：「自家用車」での来館が18人（75.8%）、「レンタカー」が0人、「公共交通機関」が3人（9.1%）、「タクシー」が0人、「その他」が5人（15.2%）となり、基本的には自家用車で来館していることがわかる。また、「その他」については、社用車、自転車、バイクなどで来館していた。

過去の来館回数（図4F）：過去の来館経験が「ない」と答えた回答者が18人（54.5%）、「1回」が1人（3.0%）、「2～5回」が9人（27.3%）、「6回以上」が5人（15.2%）であった。旧北海道開拓記念館時代を含めて複数回の来館経験者が約45%おり、2016年度も38.3%を記録していることから、毎年約40%のリピーターが来館している様子が伺える。

来館動機（図4G）：「総合展示」の観覧が4人（8.2%）、「特別展」の観覧が8人（16.3%）、「はっけん広場」が0人、「学習・研究」が0人、「旅行のついで」が4人（8.2%）、「仕事のついで」が3人（6.1%）、「なんとなく」が2人（4.1%）、「その他」が21人（42.9%）となった。2016年度は「特別展」の観覧目的が最も多かったが（41.8%）、

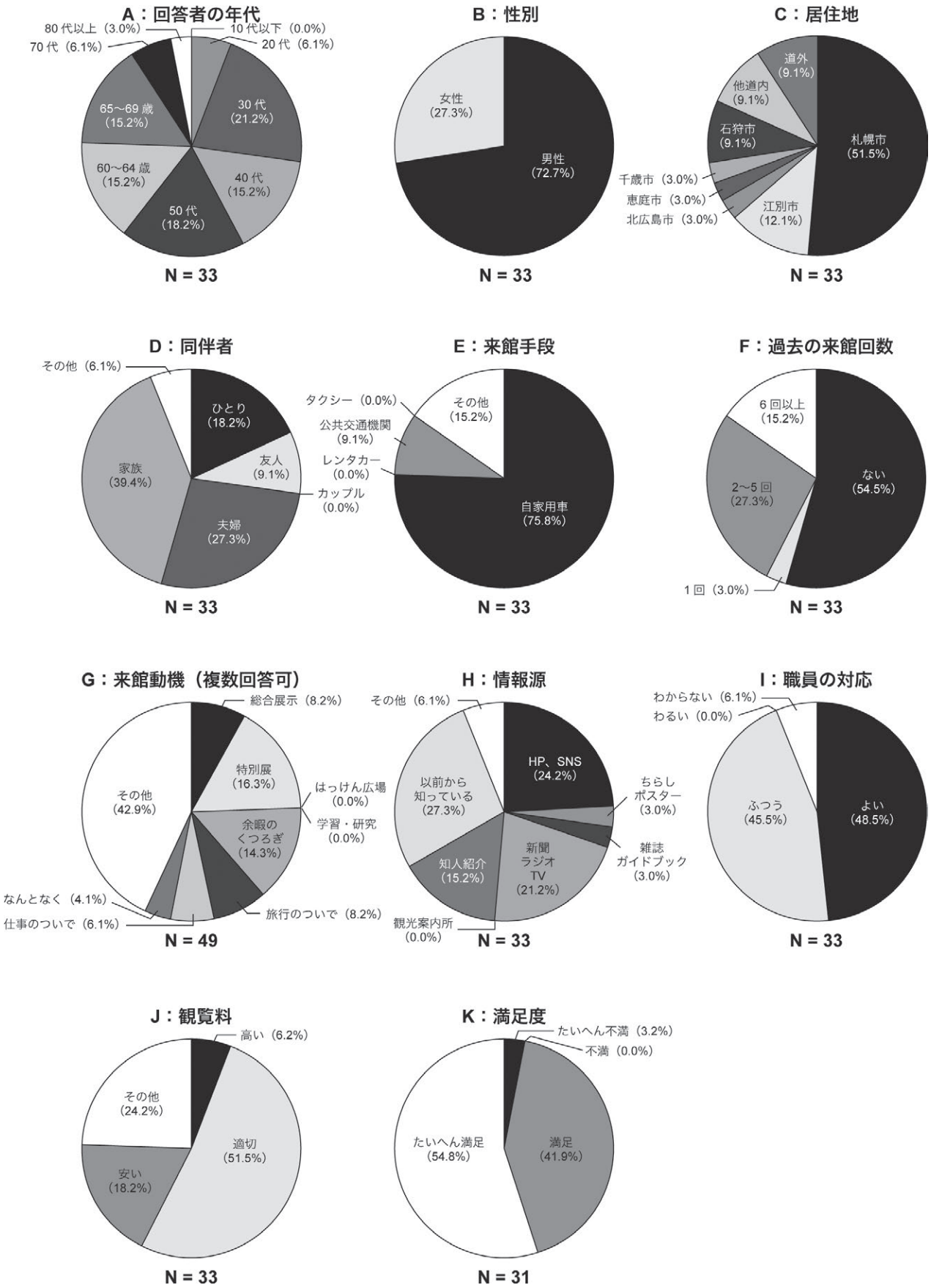

図4　総合展示室におけるインタビュー調査から得られた来館者の属性と回答結果

2017年度は16.3%と低かった。「その他」は、「子供が行きたいと言ったから」や「野幌森林公園の散歩のついで」など様々であった。

情報源（図4H）：博物館を知るきっかけとなった情報源について、「HP・SNS」と答えた来館者は8人（24.2%）、「ちらし・ポスター」が1人（3.0%）、「雑誌・ガイドブック」が1人（3.0%）、「新聞・ラジオ・TV」が7人（21.2%）、観光案内所が0人、「知人紹介（家族含む）」が5人（15.2%）、「以前から知っている」が9人（27.3%）、「その他」が2人（6.1%）となった。「HP・SNS」や「新聞・ラジオ・TV」で知る機会が多く、これは特別展関連の記事がこの時期に多く掲載されたことによると考えられる。「以前から知っている」と答えた来館者の多く（9人中6人：表1）は、来館が複数回となるリピーターであった。

職員の対応（図4I）：「よい」と答えた回答者は16人（48.5%）、「ふつう」が15人（45.5%）、「わるい」が0人、「わからない」が2人（6.1%）となり、おおむね職員の対応に関する印象は良好であった。この傾向は2016年度と変わらない。

観覧料（図4J）：観覧料が「高い」と答えた回答者は2人（6.2%）、「適切」であると答えた回答者は17人（51.5%）、「安い」と答えた回答者は6人（18.2%）、「その他」は8人（24.2%）であった。インタビュー調査の回答者は、有料入館者である20代～64歳が75.9%を占めていたことから（図4A）、現在の観覧料はおおむね適切な料金であると認識されていると考えられる。この傾向も2016年度と変わらない。

展示室の満足度（図4I）：総合展示室全体の印象を0～10点で評価してもらい、0～2点を「たいへん不満」、3～5点を「不満」、6～8点を「満足」、9～10点を「たいへん満足」に区分した。その結果、「たいへん不満」と答えた回答者は1人（3.2%）、「不満」が0人、「満足」が13人（41.9%）、「たいへん満足」が17人（54.8%）となった。したがって、総合展示室に対する満足度はかなり高いことが推察され、これも2016年度と変わらない。

自由回答：印象に残った展示や全体で気になった点をインタビューしたところ、第2テーマ「アイヌ文化の世界」の展示が印象に残ったとする意見が多かった（表1）。その他の意見については、2016年度と同様に「子どもには少し難しい」、「順路がわかりにくい」という意見が複数認められた。順路については、展示改訂によって観覧動線を「単線型」から「複線型」へ変更したことによる影響はあるが、少なからずの来館者が展示室内で“迷っている”現象が認められることから、案内サインを工夫するなどの対策が今後必要であると考えられる。

2）動向調査（表2、図5、6）

回答者属性：代表回答者15人（同伴者を含めると34名）の年代は、「20代」が2人、「30代」が2人、「40代」が3人、「50代」が3人、「65歳以上」が2人であった。「家族連れ」が7人と最も多く、「夫婦」が3人、「ひとり」が「3人」、「友人」および「カップル」がそれぞれ1人であった。サンプル数は少ないが、インタビュー調査の回答者の傾向と近いことから、総合展示室内における来館者の一般的な傾向として解釈することができる。

プロローグ：最小値が0分、最大値が5分、滞在時間の中央値は2分であった（図5）。展示資料もマンモスゾウとナウマンゾウの復元骨格標本、床面の衛星画像のみであることから、あまり滞在時間が長くなかったと考えられる。また、映像展示はほとんど見られていない。来館者は、15人中13人がプロローグ観覧後は第1テーマへ移動し、残り2人（No. 1、No. 11）は第2テーマへ移動した（図6）。

第1テーマ：最小値が10分、最大値が54分、滞在時間の中央値は25分となり、5つあるテーマの中で最も長い時間を記録した（図5）。展示面積が最も広いこともあるが、50分以上滞在している来館者も2人みられた。

第1テーマは、地質時代（第四紀）から近代までの通史展示となっており、古い時代から新しい時代へ順に観覧する方が時間の不可逆生の観点から展示内容を理解しやすい。ほとんどの来館者（13人）は、プロローグ観覧後は第1テーマへ移動し、中テーマを数字の小さい方から順に移動しているため、古い時代から新しい時代へ順に展示を観覧している（図6）。ただし、プロローグ観覧後に第2テーマへ移動している来館者（No. 1、No. 11）は、第2テーマ観覧後は第1テーマへ移動する際、プロローグを再び通らずに、「1-4蝦夷地から北海道へ」に移動している（図6）。そして、中テーマを数字の大きい順に移動しているため、新しい時代から古い時代の順に観覧している。そのため、第2テーマから第1テーマへ移動する際には、プロローグを通ることを促すサインを設置する、もしくは「1-4」から展示観覧をする来館者を想定して、「歴史を徐々にさかのぼって展示を見てみよう」などの解説を動線上において、多様な展示の見方を提案するなどの対策を講じる必要があると考えられる。

第2テーマ：最小値が0分、最大値が28分、滞在時間の中央値は14分であった（図5）。展示を観覧しない来館者は2人みられた。5人の来館者（No. 7、No. 12、No. 13、No. 14、No. 15）が、「2-1現在を知る」の次に「2-4歩みをたどる」を観覧している（図6）。これは、2-1の展示エリア内に、2-4へ移動できる通路があるためである（写真2）。したがって、2-1の展示をすべて見

表2　総合展示室における動向調査から得られたデータリスト

No.	年代	性別	居住地	同伴者（人数）	来館手段	プロローグ		第1テーマ					第2テーマ					第3テーマ				第4テーマ				第5テーマ			合計滞在時間（分）
						滞在時間（分）	入室時間	滞在時間（分）	入室時間				滞在時間（分）	入室時間				滞在時間（分）	入室時間			滞在時間（分）	入室時間			滞在時間（分）	入室時間	総合展示出口退出時間	
									1-1	1-2	1-3	1-4		2-1	2-2	2-3	2-4		3-1	3-2	3-3		4-1	4-2	4-3				
1	40代	男性	札幌市（南区）	家族（4）	自家用車	3	9:54	16	10:23	10:21	10:19	10:16	19	10:04	9:57	10:07	10:13	9	10:32	10:37	10:40	2	10:43	10:43	10:45	16	10:45	11:01	65
2	50代	男性	札幌市（白石区）	ひとり（1）	自家用車	5	9:56	37	10:01	10:11	10:22	10:30	14	10:38	10:43	10:46	10:45	12	10:52	10:57	10:59	4	11:04	11:06	－	5	11:08	11:13	77
3	70代	男性	札幌市（厚別区）	友人（2）	自家用車	4	9:57	37	10:01	10:10	10:18	10:31	20	10:38	10:42	10:45	10:39	19	10:48	10:57	11:01	7	11:07	11:11	11:12	5	11:14	11:19	92
4	60～64歳	女性	道外	夫婦（2）	自家用車	2	10:11	54	10:13	10:32	10:45	11:00	19	11:07	11:11	11:16	11:18	8	11:26	11:26	11:25 11:30	2	11:33	11:33	11:34	3	11:35	11:38	88
5	60～64歳	男性	札幌市（北区）	夫婦（2）	自家用車	2	11:20	13	11:22	11:24	11:25	11:31	0	－	－	－	－	10	11:35	11:40	11:42	6	11:45	11:45	－	0	－	11:51	31
6	70代	男性	札幌市（豊平区）	家族（3）	自家用車	1	11:25	51	11:26	11:37	11:43	12:06	28	12:17	12:38	12:24	12:26	15	12:45	12:48	12:55	5	13:00	13:01	13:11	7	13:04	13:12	107
7	60～64歳	男性	札幌市（豊平区）	家族（3）	自家用車	1	11:26	49	11:27	11:38	11:50	12:03	26	12:16	12:32	12:24	12:20	24	12:42	12:52	12:56	7	13:06	13:09	13:13	9	13:13	13:22	116
8	30代	女性	江別市	家族（2）	自家用車	1	13:06	10	13:07	13:11	13:13	13:16	9	13:25	13:17	13:18	13:25	6	13:30	13:28	13:26	14	13:49	13:41	－	9	13:32	13:55	49
9	20代	女性	札幌市	家族（3）	自家用車	2	13:09	15	13:11	13:17	13:19	13:22	12	13:26	13:33	13:34	13:34	8	13:38	13:40	13:42	4	13:46	13:48	－	11	13:50	14:01	52
10	50代	男性	札幌市（中央区）	夫婦（2）	公共交通機関	1	13:39	17	13:40	13:46	13:47	13:54	0	－	－	－	－	8	13:57	14:00	14:02	5	14:05	14:07	14:10	8	14:10	14:18	39
11	30代	女性	札幌市（中央区）	家族（3）	自家用車	1	13:29	19	14:03	14:01	13:56	13:51	21	13:46	13:30 13:50	13:35 13:45	13:44	15	14:10	14:15	14:18	6	14:25	14:27	－	9	14:31	14:40	71
12	20代	男性	道外	カップル（2）	レンタカー	3	14:04	29	14:07	14:14	14:18	14:32	7	14:36	14:41	14:40	14:39	7	14:43	14:47	14:48	15	14:50	14:55	14:56	0	－	15:05	61
13	40代	男性	札幌市（清田区）	ひとり（1）	自家用車	0	14:37	25	14:37	14:47	14:53	15:08	9	15:12	15:21	15:20	15:19	6	15:21	15:25	15:26	4	15:27	15:30	15:31	2	15:31	15:33	46
14	50代	男性	札幌市（南区）	ひとり（1）	自家用車	2	14:51	22	14:53	14:56	15:00	15:08	11	15:15	15:22	15:19	15:18	9	15:26 15:32	15:29	15:31	15	15:35	15:44	15:47	2	15:50	15:52	61
15	40代	女性	札幌市（厚別区）	家族（3）	自家用車	1	14:10	28	14:11	14:20	14:23	14:28	16	14:39	14:54	14:43	14:42	13	14:55	15:01	15:04	3	15:08	15:09	－	25	15:11	15:36	86

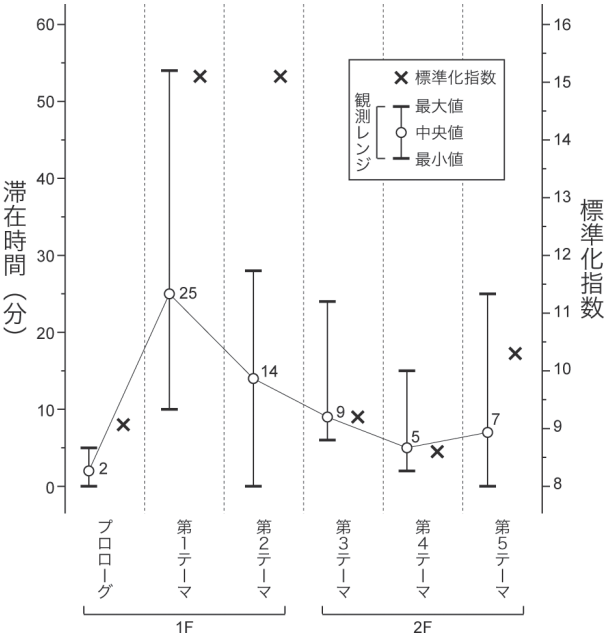

図5　総合展示室における動向調査から得られた各テーマの滞在時間。標準化指数＝各テーマにおける滞在時間の中央値／展示観覧に要する歩数×100

写真2　第2テーマ「アイヌ文化の世界」における中テーマ「2-1」から「2-4」へつながる通路（白矢印）

終わることなく2-4へ移動していることから、今後、この通路について対策を講じる必要があると考えられる。

第3テーマ：最小値が6分、最大値が24分、滞在時間の中央値は9分であった（図5）。ほとんどの来館者（13人）は、「3-1自然の恵みとともに」へ移動し、中テーマを数字の小さい順に観覧している（図6）。ただし、2人（No. 4、No. 8）は、「3-3〈北海道らしさ〉のア・ラ・カルト」へ移動し、中テーマを数字の大きい順に観覧している（図6）。

第4テーマ：最小値が2分、最大値が15分、滞在時間の中央値は5分であった（図5）。14人が第3テーマから移動して展示を観覧しているが、1人（No. 8）は第3テーマから回廊をとおって第5テーマへ移動し、その後第4テーマを観覧していた（図6）。

第5テーマ：最小値が0分、最大値が25分、滞在時間の中央値は7分であった。なお、第5テーマは展示面積が小さく中テーマごとの集計が困難であったため、大テーマでの滞在時間のみ集計している。展示を観覧しない来館者は2人みられた。

全体の傾向：展示室全体では、最小値が31分、最大値が116分、滞在時間の中央値は65分であった（表2）。これは、2016年度の傾向と同様であり、総合展示室の展示観覧はおおむね1時間程度であると考えられる。

展示室の動線上、プロローグの後は、第1テーマまたは第2テーマどちらへも行くことができる（図2）。しかし、15人中13人がプロローグの次に第1テーマを選んでおり、来館者はおおむねテーマの数字順に観覧している。これも、2016年度の調査と同様の傾向である。

ただし、上述のように、第2テーマへ移動した来館者は、その後、第1テーマを時代の新しいものから古いものへ“逆”から観覧していたり、第2テーマでは、2-1の観覧途中で2-4へ移動する来館者がみられた。「複線型」とは言え展示内容を理解しやすい順番もあり、また、来館者からは「順路がわかりにくい」という意見もあることから（表1）、どのテーマからも観覧できる「複線型」の動線は確保しつつも、推奨する中テーマの観覧順をサイン等で示すなど、今後、対策を講じる必要があると考えられる。

各テーマの滞在時間の中央値は、第1テーマが25分と最も長く、次いで第2テーマが14分であり、1階の展示と2階の展示における滞在時間が大きく異なっている（図5）。この傾向は2016年度の調査と同様である。ただし、展示面積（または移動距離）が影響している可能性が考えられるため、各テーマの観覧時間を標準化し比較できるよう、中テーマごとに観覧するのに必要な歩数（筆頭著者による歩測）を計測し、滞在時間の中央値をその歩数で除した、各テーマの滞在時間における「標準化指数」を求めた（標準化指数＝各テーマにおける滞在時間の中央値／展示観覧に要する歩数×100）。その結果、観覧に要する歩数（移動距離）は、「プロローグ」は22歩、「第1テーマ」は166歩、「第2テーマ」は88歩、「第3テーマ」は98歩、「第4テーマ」は58歩、「第5テーマ」は68歩となり、標準化指数は、それぞれ9.1（プロローグ）、15.1（第1テーマ）、15.1（第2テーマ）、9.2（第3テーマ）、8.6（第4テーマ）、10.3（第5テーマ）となった（図5）。したがって、標準化した値でも、1階にある第1、2テーマの滞在時間が、2階にある第3〜5テーマに比べて高いことから、1階の展示に比べて2階の展示の観覧時間の方が少なく、来館者が徐々に展示観覧に疲れ

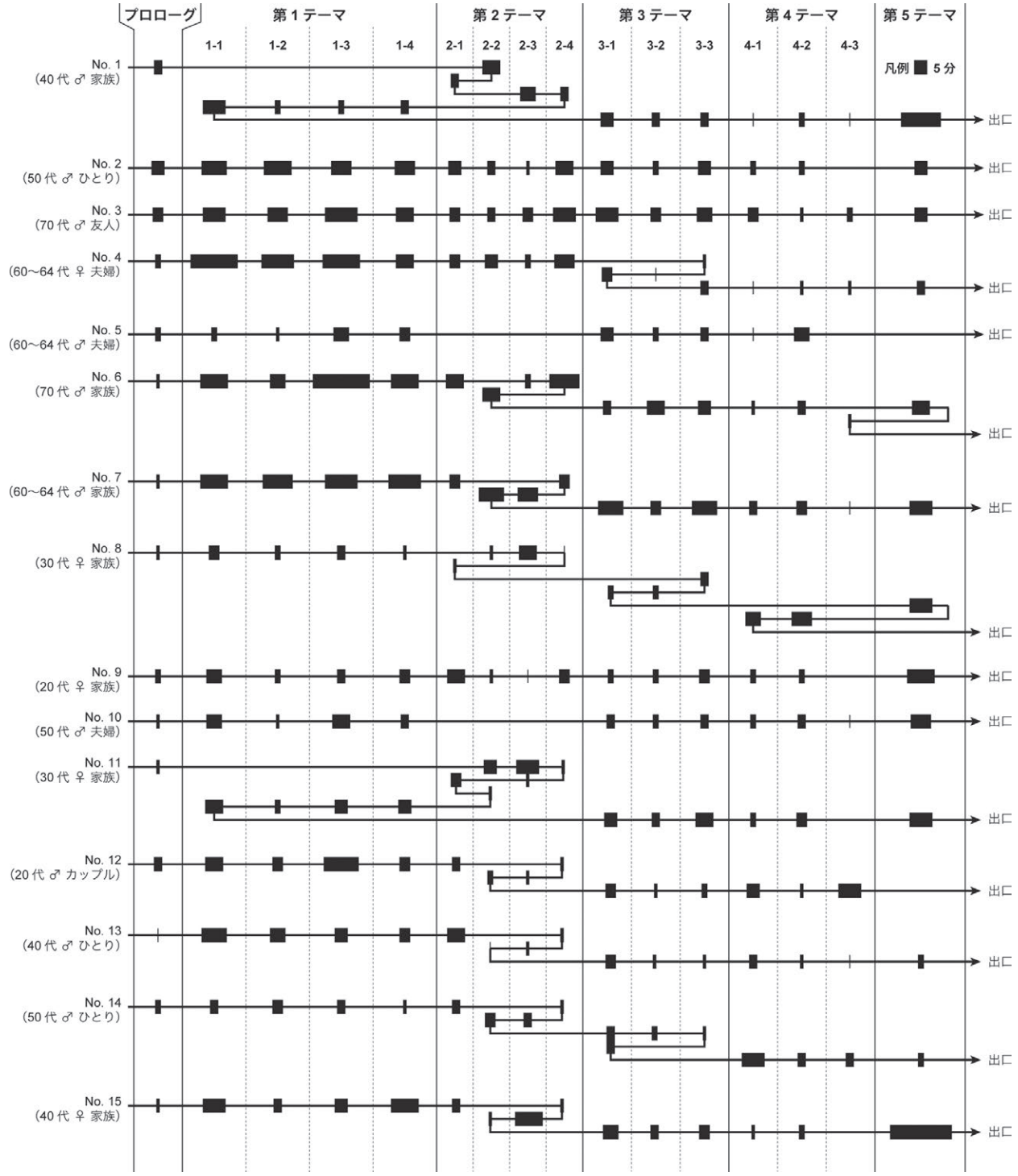

図6　総合展示室における動向調査から得られた来館者の展示室内における移動の様子

てきている、もしくは飽きてきていることが考えられる。このことは、本来は2階の展示に興味がある来館者（もしくは同伴者）が、1階を観覧している途中で疲れてしまい、その後2階へ移動しても十分に展示を観覧する余力がない場合があることが想定される。また、プロローグ観覧後に、直接2階の展示室へ移動する来館者は2016年度、2017年度ともみられないことから、プロローグ内に、各テーマ内容について知ることができ、来館者の興味によって直接2階の展示室に行く選択があることを促すようなナビゲーションの役割をもつ解説パネル、もしくはICT装置を設置するなどの対策を講じる必要があると考えられる。

(2) はっけん広場における来館者調査

2017年8月27日におけるはっけん広場の来館者数は52人、はっけんキットを使用した来館者は49人、はっ

表3　はっけんキットの種類（2017年8月27日時点）

番号	はっけんキット
地学1	北海道の砂を観察する
地学2	アンモナイト化石を観察する
生物1	毛皮にさわろう　ヒグマ
生物2	毛皮にさわろう　エゾシカ
生物3	毛皮にさらろう　アザラシ
生活1	冬の女性の装いをしてみよう
	角巻　雪下駄
生活2	冬の女性の装いをしてみよう
	お高祖頭巾　番傘
生活3	お店屋さんになってみよう
生活4	漁師さんになってみよう
生活5	農家の人になってみよう
生活6	戦時中のくらし
生活7	升でお米をはかってみよう
生活8	さおばかりでお肉をはかろう
生活9	わらで卵を包んでみよう
生活10	経木でアサリを包んでみよう
生活11	風呂敷を使ってみよう
生活12	おんぶをしてみよう
生活13	おむつをあててみよう
生活14	この布は何からできているのかな？
生活15	ふわふわの毛をとかしてみよう
遊具1,2	あやとり　おはじき　パッチ
遊具3,4	お手玉　こま　わなげ
遊具5,6	竹わり　けん玉　だるまおとし
遊具7	万年ゲーム　清少納言知恵の板ほか
遊具8	かるた　家族あわせ　鳥さし
遊具9	ダイヤモンドゲームほか
遊具10	蝦夷土産道中寿五六ほか
アイヌ1	ムックリを鳴らそう
アイヌ2	いろいろな繊維にさわってみよう
アイヌ3	着物を着てみよう（小さな着物）
アイヌ4	着物をきてみよう（大きな着物）
アイヌ5	刺繍を観察しよう
アイヌ6	アイヌ語かるたに挑戦！
アイヌ7	アイヌパズルに挑戦！
アイヌ8	背負い縄で荷物を運んでみよう
アイヌ9	背負い袋を背負ってみよう
アイヌ10	サケ皮靴を組み立てよう
歴史1	縄文人のおしゃれ
歴史2	土器文様のいろいろ
歴史3	鹿の角でつくった釣り針

けんイベントに参加した来館者は5人であった。調査時におけるはっけんキットの種類は40種であり、「地学」「生物」「生活文化」「遊具」「アイヌ文化」「歴史」の6つのカテゴリーに区分される（表3）。

1）インタビュー調査（表4）

回答者属性：調査協力者11人（同伴者を含めると35人）全てが家族連れであった。このうち、同伴児童16人の内訳は、乳児（1〜2歳）が3名、幼児（3〜6歳）が9名、小学校低学年（7〜8歳）が3名、小学校中学年（9〜10歳）が1名となり、はっけん広場を訪れる児童は、大半が小学校低学年以下であった。

使用したキットの種類（複数回答可）：「遊具」を使用した来館者は11人中9人おり、次いで「生活文化」が5人、「アイヌ文化」が3人、「地学」および「生物」が2人、「歴史」が1人であった。したがって、「遊具」のはっけんキットを使用する来館者が多いことが伺える。また、「面白いと感じたキット」についても、「遊具」や「生活文化」に属するものが多かった（表4）。

ラベルや注意事項の見やすさ：「見やすい」と答えた来館者は3人、「ふつう」が4人、「見ていない」が2人あり、概ねラベルや注意事項の見やすさについては良好である。

はっけんベントの参加：「参加した」と答えた来館者は3人、「参加していない」が8人であり、イベントにあまり参加していない状況が伺える。

イベントの開催日について：はっけんイベントが土日祝日のみ開催されていることを知っているのか質問したところ、「知っている」と答えた来館者は4人、「知らない」は5人、非回答は2人であった。参加した来館者の少なさも考慮すると、はっけんイベントの開催についてあまり周知されていない現状が考えられる。なお、「知っている」と答えた来館者の内、その情報を知った手段を質問したところ、「HP」と答えた来館者は3人、「行事案内」は1人であった。

職員の対応：「よい」と答えた回答者は7人、「ふつう」が4人であり、おおむね職員の対応に関する印象は良好であった。

はっけん広場の場所：「わかりやすい」と答えた来館者は5人、「わかりにくい」は6人であった。半数以上の

表4　はっけん広場におけるインタビュー調査から得られたデータリスト

No.	同伴者（人数）	性別	同伴児童（年齢）			遊んだはっけんキットの分野				面白いキット	注意事項	イベント	土日開催	情報源	要望	職員対応	場所	全体の感想
1	家族(2)	女性	幼児(4)	—	—	遊具	—	—	—	コマ	—	参加してない	—	—		よい	わかりやすい	
2	家族(3)	女性	小学校低学年(7)	—	—	地学	遊具	歴史	アイヌ文化	コマ	—	参加した	知らない	—		よい	わかりにくい	
3	家族(3)	女性	幼児(4)	—	—	生物	生活文化	遊具	歴史	枡でお米をはかる	ふつう	参加した	知っている	HP		よい	わかりやすい	
4	家族(3)	男性	幼児(6)	—	—	遊具	—	—	—	輪投げ	見てない	参加してない	—	—		ふつう	わかりにくい	大人の方が楽しい。今の子どもには物足りない。
5	家族(3)	男性	小学校低学年(8)	—	—	生物	生活文化	遊具	アイヌ文化	着物 アクセサリー 竹わり コマ	見やすい	参加した	知らない	—	注連飾り	よい	わかりにくい	
6	家族(3)	女性	幼児(3)	乳児(1)	—	生活文化	—	—	—	枡でお米をはかる	ふつう	参加してない	知らない	—	小さい子ども向けのものや時間のかからないもの（以前、夜の生き物の展示の際に作ったものは簡単だった）	ふつう	わかりにくい	
7	家族(4)	—	幼児(6)	幼児(4)	乳児(2)	生活文化	遊具	—	—	枡でお米をはかる けん玉	見やすい	参加してない	知っている	行事案内		ふつう	わかりやすい	
8	家族(4)	男性	幼児(4)	—	—	生活文化	遊具	—	—	けん玉 釣り	ふつう	参加してない	知らない	—	ムックリ 鏃	よい	わかりにくい	入口に子どもの目をひくようなものがあった方がよい。置いてあるだけでは、触ってよいものだと、子どもにはわかりにくい。
9	家族(3)	男性	小学校中学年(10)	—	—	遊具	アイヌ文化	—	—	お手玉 ジグゾーパズル	ふつう	参加してない	知っている	HP	スライム アイヌの織物	よい	わかりやすい	靴を脱いで遊べるスペースがもっと広ければよかった。
10	家族(4)	女性	幼児(6)	乳児(0)	—	遊具	—	—	—	双六 ダイヤモンドゲーム 万年ゲーム	見やすい	参加してない	知っている	HP		よい	わかりやすい	
11	家族(3)	男性	小学校低学年(8)	幼児(4)	—	地学	—	—	—	釣り	見てない	参加してない	知らない	—		ふつう	わかりにくい	書いてあるやり方では難しかった。

表5　はっけん広場における動向調査から得られたデータリスト

No.	同伴者（人数）	回答者性別	同伴児童（年齢）			はっけん広場			使用したはっけんキット（使用時間、取出方法、使用場所）※番号は取り出した順番	マニュアル	イベント体験時間（分）
			1人目	2人目	3人目	滞在時間（分）	入室時間	退出時間			
1	家族（2）	女性	幼児（4）	—	—	11	11:03	11:14	①生物1（1分、中身、その場） ②遊具3、4（8分、中身、マット） ③遊具5、6（3分、中身、マット）	—	—
2	家族（3）	男性	小学校低学年（7）	—	—	60	10:55	11:55	①地学2（1分、中身、その場） ②生物1（1分、中身、その場） ③生活2（1分、中身、その場） ④遊具3、4（4分、箱、マット） ⑤遊具5、6（1分、中身、その場） ⑥地学1（2分、中身、その場） ⑦アイヌ文化2（2分、中身、その場） ⑧アイヌ文化8（1分、中身、その場） ⑨歴史3（4分、箱、マット）	読んだ	33
3	家族（3）	女性	幼児（4）	—	—	58	11:12	12:10	①遊具5、6（9分、中身、畳） ②歴史2（9分、中身、その場） ③生活2（20分、箱、その場） ④生活4（2分、箱、その場） ⑤生活8（7分、箱、畳） ⑥生活10（9分、箱、畳） ⑦生活14（6分、箱、畳）	—	—
4	家族（3）	女性	幼児（3）	乳児（1）	—	18	13:26	13:44	①生活7（17分、箱、畳） ②遊具1、2（1分、中身、マット） ③遊具3、4（1分、中身、マット）	読んでない	—
5	家族（2）	女性	小学校中学年（9）	—	—	5	13:05	13:10	①地学2（1分、中身、その場）	—	—
6	家族（3）	男性	小学校低学年（8）	—	—	41	13:34	14:15	①生物1（1分、中身、その場） ②遊具3、4（2分、中身、マット） ③生活6（1分、中身、その場） ④生活8（1分、中身、その場） ⑤遊具5、6（1分、中身、マット） ⑥アイヌ文化1（3分、中身、その場） ⑦アイヌ文化4（3分、中身、その場） ⑧生活2（1分、中身、その場） ⑨歴史3（1分、箱、その場）	—	27
7	家族（4）	男性	小学校低学年（8）	幼児（4）	幼児（2）	26	13:50	14:16	①生活7（5分、箱、畳） ②生活8（3分、箱、畳） ③遊具1、2（2分、箱、畳） ④遊具3、4（5分、箱、畳） ⑤遊具5、6（6分、箱、畳） ⑥生活15（3分、中身、その場）	—	—
8	家族（3）	男性	小学校中学年（10）	小学校低学年（8）	—	5	14:48	14:53	①遊具3、4（2分、中身、マット） ②遊具5、6（1分、中身、その場）	読んでない	—
9	家族（4）	男性	幼児（4）	—	—	25	15:05	15:30	①生物1（1分、中身、その場） ②生物3（1分、中身、その場） ③生活2（1分、中身、その場） ④遊具3、4（1分、中身、その場） ⑤生活4（17分、箱、マット）	—	—
10	家族（3）	男性	小学校低学年（8）	幼児（4）	—	51	14:33	15:24	①遊具3、4（3分、箱、マット） ②遊具10（11分、箱、マット） ③遊具5、6（18分、箱、マット） ④歴史2（27分、箱、マット） ⑤歴史3（4分、箱、マット）	読んでない	—

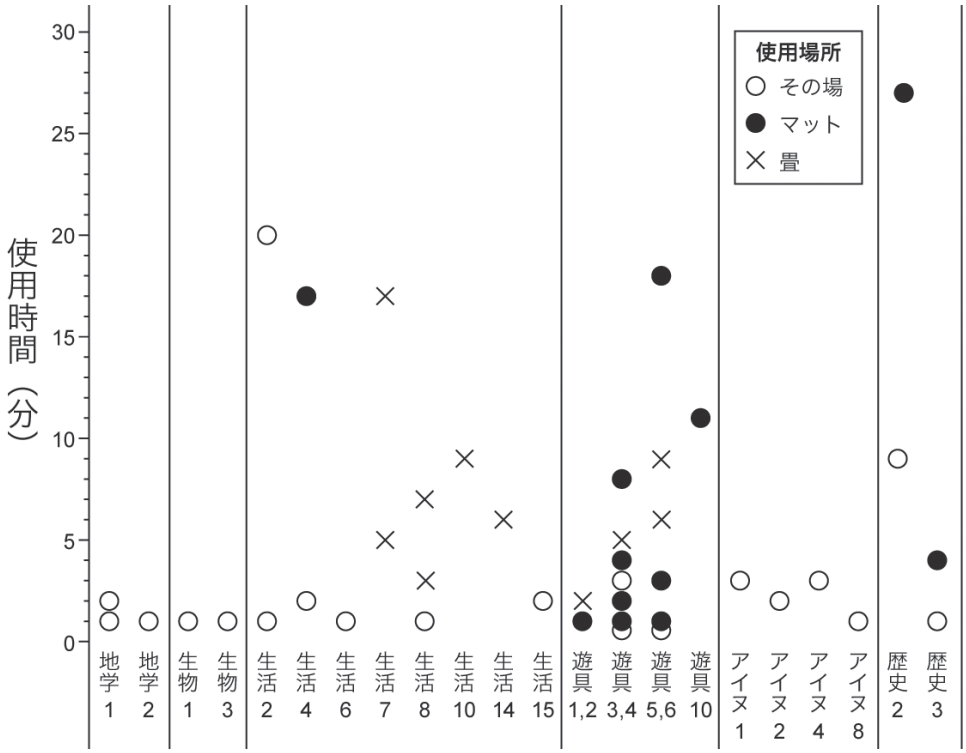

図7　はっけん広場における動向調査から得られたはっけんキットの使用時間と場所

来館者が「わかりにくい」と答えている。また、総合展示室の入場数（314人）に対しはっけん広場の入場数（52人）が少ないことから、来館者の多くははっけん広場を利用していない現状が伺える。建物の構造上、2階にある総合展示室の出口および特別展示室から中地階のはっけん広場までは距離が離れており、はっけん広場の位置がわかりづらい面はあるが（図1）、今後、展示室とはっけん広場をつなぐ動線づくりやサイン等の改善を図る必要があると考えられる。

全体の感想：「大人の方が楽しい。今の子供には物足りない」、「入口に目を引くようなものがあると良い」、「靴を脱いで遊べるスペースがもっと広い方が良い」、「マニュアルに書いてあるやり方では難しかった」という意見がみられた。

2）動向調査（表5、図7）

回答者属性：調査協力者10人（同伴者を含めると30人）全てが家族連れであった。No. 5、No. 7以外は、インタビュー調査に協力いただいた来館者と重複している。

はっけん広場の滞在時間：最小値が5分、最大値が60分、滞在時間の中央値は25.5分であった（表5）。このことから、来館者は、30分程度はっけん広場を利用していることが伺える。

使用されたはっけんキット：40種中、22種類のキットが使用された（表5）。「地学」「生物」「アイヌ文化」に属するキットは使用時間が数分であり、収納している箱の中もしくはその近くで使用されていた。一方、「生活文化」「遊具」「歴史」に属するキットは、畳またはマットの上に広げられ、使用時間も長い（図7）。このことから、キットの分野によって、その場で使用されやすいものと、畳やマットの上で広げられやすいものとに区別することができ、その場で使用されやすいものは十分に体験されていない現状があると考えられる。現在、はっけんキットは、棚の中にすべて収納された状態で整理されているが（写真3）、例えば、箱の中やその近くで使用されやすい分野については、机の上に出して来館者の目に止まって体験しやすい環境づくりをしたり、動物の皮など手で触れるキットについては壁にとりつけた

写真3　はっけんキットの収納状況

りするなど、“体験展示”として立体的に展開すると、より体験時間を長くできるかもしれない。また、キットを机の上に出すスペースが確保できない場合には、使用されたキットが約半数であることから、時期によって体験できるキットを変更することで数を少なくし、代わりに棚を少なくして空間を確保するなどの工夫が考えられる。

マニュアル：はっけんキットの箱の中にある使用方法などを説明したマニュアルを「読んだ」と答えた来館者は1人のみであった。ただし、現状において使い方を間違えやすいキットについてはマニュアルの内容や提示方法を改善する必要はあるが、遊具などマニュアルを読まずともある程度使い方がわかるものもあるため、一概には言えない。

はっけんイベントの体験時間：2人（同伴者を含めると5人）が参加し、それぞれ33分（No. 2）、27分（No. 6）であり、今回のはっけんイベント「アイヌ民族のゴザ編み機でコースターを作ろう！」の体験時間は30分程度であったことが伺える。上述のはっけん広場の滞在時間の中央値が25.5分であり、イベント参加者は全体の来館者に対して少なかったことから、この値はほぼはっけんキットの体験時間であると考えられる。そのように仮定すると、はっけん広場において、はっけんキットを体験し、かつはっけんイベントに参加する場合には、はっけんイベントの内容と設定する所要時間によっては50〜60分程度の時間を要することになる。実際に、はっけんイベントに参加した2人（No. 2、No. 6）の滞在時間は、それぞれ60、41分であった（表5）。

一方、総合展示室における滞在時間は1時間程度である（表2）。特別展示室における滞在時間を計測していないため正確には不明であるが、仮に経験則から滞在時間を30分と推定し、総合展示室および特別展示室で展示観覧、はっけん広場においてキットおよびイベントを体験した場合、全体で2時間30分程度（総合展示室1時間、特別展示室30分、はっけん広場1時間）の滞在時間を要することになる。総合展示と同様に、本来ははっけん広場に興味がある来館者（もしくは同伴者）が、先に展示観覧を行って途中で疲れてしまい、その後はっけん広場へ行かずに帰宅したり、時間の制約上、行けなくなってしまう可能性は十分考えられる。どの程度の滞在時間が来館者にとって許容できるのかについては今後の調査を必要とするが、このように来館者が許容できる全体の滞在時間も考慮しながら、博物館での“楽しみ方”について多様な選択肢があることを示すことも重要であろう。

4　まとめと今後の課題

2017年7月27日（日）に博物館実習の一環として実施した、総合展示室およびはっけん広場における来館者調査（インタビュー調査、動向調査）から、以下のことが傾向として読み取れた。

総合展示室における来館者調査では、有料入館者（20代〜64歳）を中心とした青年期〜壮年期の家族または夫婦の入館者の意見が最も強く反映されていると考えられる。来館者の居住地は札幌市が約半数を占め、約40%がリピーターである。現在の観覧料はおおむね適切な料金であり、総合展示室に対する満足度は高い。一方で、「子どもには少し難しい」、「順路がわかりにくい」という意見が認められた。展示の観覧はおおむね1時間程度である。ただし、1階の展示室に比べて2階の展示室における滞在時間が短くなっており、これは展示観覧に疲れてきている、もしくは飽きてきていると考えられる。これらの傾向は、2016年度の同時期に実施した来館者調査と同様の傾向を示すことから、夏季における来館者の一般的な傾向である可能性が高い。また、来館者は、展示室の構造上の問題から展示を全て見終わる前に、異なるテーマの展示へ途中で移動していたり、内容を理解しやすい順番とは逆の方向で観覧している場合があることが判明した。今後は、案内サインの改善やプロローグ内に、各テーマ内容について知ることができ、来館者の興味によって直接2階の展示室に行く選択があることを促すようなナビゲーションの役割をもつ解説パネル、もしくはICT装置を設置するなどの対策を講じる必要があると考えられる。

はっけん広場における来館者調査では、小学校低学年以下の児童をもつ家族連れが多いことがわかった。「地学」「生物」「アイヌ文化」に属するキットは使用時間が数分であり、収納している箱の中もしくはその近くで使用されていた。一方、「生活文化」「遊具」「歴史」に属するキットは、畳またはマットの上に広げられ、使用時間も長い。今後は、その場で使用されやすい分野のキットは、机の上に出して来館者の目に止まってすぐに体験できるようにしたり、動物の皮など手で触れるキットについては壁にとりつけたりするなど、“体験展示”として立体的に展開すると、より体験時間を長くできるかもしれない。

このように、来館者調査からは様々なことが読み取れる。2016年度から8月下旬の週末（道内では夏休み終了後の週末）に2年間継続して実施したことにより、年度が異なっても同様の傾向が認められるものがあることがわかり、来館者の一般的傾向を捉えられるようになりつつある。したがって、今後も継続して同様の調査を行うことで、展示改訂後の課題・問題点を洗い出し、今後の改善に向けた基礎資料として利用することが可能になるだろう。

謝辞

今回の調査は、博物館実習生16名の多大なる協力によって成立したものである。

なお、本研究は北海道博物館の道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト「北海道ののぞましい博物館のあり方に関する市民意識調査」の一環としても実施した。

引用文献

北海道博物館 2017 北海道博物館要覧 2015. 北海道博物館.

堀　繁久 2014. 北海道博物館、2015年春オープン! 博物館研究 49(9): 25–28.

堀　繁久 2015. 北海道博物館の新しい自然展示「生き物たちの北海道」. 博物館研究 50(10): 18–21.

池田貴夫・会田理人・青柳かつら・山際秀紀・舟山直治・村上孝一・出利葉浩司・小林孝二 2016. 世代間対話の場としての博物館づくり –総合研究プロジェクト「モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史」研究報告–. 北海道博物館研究紀要 (1): 103–110.

栗原憲一・田村雅史 2017. 2016年度博物館実習において実施した来場者調査について. 北海道博物館研究紀要 (2): 121–132.

文部科学省 2009. 博物館実習ガイドライン. 文部科学省.

田村雅史・出利葉浩司 2016. 北海道博物館における言語展示への試み(報告) –総合展示第2テーマに設置した「アイヌ語ブロック」を中心に–. 北海道博物館研究紀要 (1): 127–148.

RESEARCH REPORT

Current Situation and Issues of the Main Exhibition Hall of the Hokkaido Museum and Discovery Square According to an Audience Research

Ken'ichi KURIHARA, Takao IKEDA, and Shigehisa HORI

This article reports on an audience research (interview survey and trend survey) on the Main Exhibition Hall and Discovery Square, which was carried out as part of museum training on July 27, 2017. The research showed 1) Approx. half of the museum visitors live in Sapporo, and approx. 40% of the visitors visit the museum repeatedly. 2) Satisfaction with the Main Exhibition Hall was high, but opinions such as, "It is a little difficult for children." and "The route is complicated" were also received, and 3) The amount of time spent in the exhibition hall on the second floor is less than that on the first floor. Visitors seem to tire or become bored with the exhibition. The visitor survey conducted at the same time in 2016 showed a similar trend, and the possibility of this general trend in visitors in summer is high. On the other hand, in Discovery Square, 1) Most of the visitors are families with elementary school age children or younger. 2) The time spent using the "earth science", "biology" and "Ainu culture" kits was short, and were used in their storage boxes or nearby. In contrast, "life culture", "play equipment" and "history" kits were spread out over the mats and were used for a longer time. By continuing to conduct similar research, determining issues and problems after exhibition improvement, and use of the information as the basis for further improvement, is considered possible.

Ken'ichi KURIHARA : Museum Studies Group, Research Division, Hokkaido Museum
Takao IKEDA : Folk Life and Industrial History Group, Research Division, Hokkaido Museum
Shigehisa HORI : Museum Studies Group, Research Division, Hokkaido Museum